

祈りの風景 不思議な祭り

暴れ天狗が女性を突く仕草に
おおらかな笑いが広がる



暴れ天狗が女性を
神棒で突いて回る

奇祭「八朔祭」

新庄の「八朔祭」は、400年の伝統を持ち、福井県内随一の奇祭とされる(八朔とは旧暦8月1日のこと)。その主役ともいえるのが「暴れ天狗」。氏子衆が八朔音頭を唄いながら、大角樽(樽神輿)を担いで日吉神社へと練り歩く際、男性器を模した神棒を持って女性や子ども達を追いかけ回す。神棒で突かれると子宝に恵まれるとされ、その仕草に見物客はみな大笑い。セクハラなど何処吹く風といった、何ともおおらかな祭りが、新庄に豊穡の秋の訪れを告げる。



八朔祭(はっさくまつり)

(日時)9月1日
10:30~東字の黒天狗
13:30~一番~三番樽(西字)
15:00~西字の赤天狗

■日吉神社(祭りのルート:東字は田代、寄積、奥。西字は馬場、岸名、浅ヶ瀬、松屋。)
☎TEL 0770-32-0058(新庄区事務所)



的に当てない珍しい神事 「弓打ち講」

寄積の八幡神社の「弓打ち講」は、豊作や家内安全を祈願するものだが、その所作が珍しい。正月の凜とした空気の中、「ヤリマシトー」「やるぞ」の意味という威勢の良い声が響き渡り、わざと的に外して空高く矢を放つ。的に当たると良過ぎて悪いと忌み嫌い、あえて的に外すという神事。



弓打ち講(ゆみうちこう)

(日時)1月9日頃8:30~
■八幡神社(美浜町寄積)
☎TEL 0770-32-0222(若狭美浜観光協会)

彌美神社の「王の舞」

新庄の大日原のヨボの木に御神の御幣が天降り、彌美神社に祀られたという故事に基づき行われる祭礼。神事は、その発祥地と伝えられる新庄の一本幣、七本幣に始まり、各集落の御幣とともに一本幣から大御幣に御霊を移す「幣迎え」、そして、大御幣を奉納する「幣押し」の神事が練り広げられる。

祭りのクライマックスを飾るのは「王の舞」と「獅子舞」の奉納。「王の舞」は、深い天狗の面をつけ、頭には鳳凰の鳥兜、鮮やかな赤い着物を着て、鉾を手に優雅に美しく舞い踊る。古い舞楽の調べとともに詩情あふれる神事が多く、見物客を魅了する。福井県の無形民俗文化財指定。



彌美神社

王の舞(おうのまい)

(日時)5月1日早朝~、16時~王の舞
■彌美神社(美浜町宮代10-25)
☎TEL 0770-32-0222(若狭美浜観光協会)

